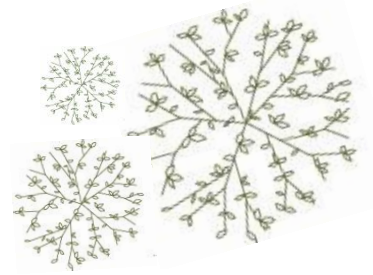


# 根来山げんきの森倶楽部

令和4年2月作業日誌



2月の活動日は寒風が吹く中、子どもたちや大学生のボランティアも加わり、巨木の整備に薪割り、新デッキの製作と様々な森づくりに取り組みました。

**活動日：2月20日 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：51人 オオムラサキプロジェクト：25人**

## 再び魅力ある場所に

伐木収集・運搬…本日は、大谷池ほとりの伐木収集・運搬に参加しました。先月に続いた作業です。昨日の雨はあがりましたが、西高東低の気圧配置となり、冷たい風が吹く中での作業でした。この場所は、オープン当時は人が集まるよう整備されていましたが、風雨による崩壊堆積などで荒れてしまい、最近まで未利用だったそうです。ただ、立派なムクノキやエノキ（オオムラサキの幼虫が葉を食べる）もあることから、もう一度魅力ある場所にしたいそうです。



本日の作業は、H理事長をヘッドに、午前中は総勢8名、午後は6名でした。午前中は、切り倒し済みの樹木を積み込みやすい場所へ収集しました。人力ではとても無理なので、ワイヤー掛けしたものをウインチで引っ張りました。谷をまたいでワイヤーを張ったので、なかなか見ごたえのある作業でした。お昼を挟み、午後は積み込み・運搬作業でした。大きいものはウインチを利用し、比較的小さいものは人力でテラーに積み込みました。あとは、第2駐車場へ運搬して本日の作業は3時前に無事に終了しました。以前のように日のさす所となり、オオムラサキを見られるげんきの森になることが楽しみです。（佐藤 広明）

## 子どもたちにも大人気の芋煮



芋煮づくり（参加者6名）…今回は里芋、白ネギを沢山いただき、手作りこんにやくもあるということで、山形県の郷土料理の芋煮を作りました。吹きさらしの寒い中、3名の倶楽部員さんが野菜を切ってくださいました。里芋は、木材でゴロゴロとかき回しての皮むきに挑戦しましたが、なかなかうまくいかず、結局包丁で皮むきをしました。

今回はオオムラサキプロジェクトの参加者も食べるということで、50名ほどのクラブ員に30名プラスされて大量の炊き出しとなりました。特大寸胴での味付けは難しく、本場の芋煮を食べたことがないということもあり、なかなか味が決まりませんでした。出来上がって蓋をあけると、子どもたちは「美味しそー！！」と盛り上がっていました。たくさんお代わりもしてくれて嬉しかったです。今回は定番の牛肉でしたが、干しイカなどもいれるとさらに美味しくなるそうです。また色々な料理にチャレンジしたいと思います。（栗山 美和）

## 高度な技術と豊かな経験の凄い業

うるし谷整備…〈午前の部〉〇1班の参加者は5名で、入り口付近の竹の整備です。現場は斜面でザレ場のため、つい足に力が入りましたが、手慣れた作業なので順調に進みました。とても地道な作業ですがスッキリした景観になるといつもの様に気持ちもスッキリしました。

〇2班の参加者は3名。ウルシの木の植栽地入り口のアラカシの整備です。谷川近くのため、足場が悪く処理をするのに少々時間がかかりましたが、1班の合流でお昼までには片付けることが出来ました。やはり人手が多いと作業はぐーんと進むことを実感しました。

〈午後の部〉午後からHさんが応援に来てくださり、先日の「うるし谷伐整備作業」の現場で7名での作業です。ビックリしました。見上げると空が大きく開けて、採光や風通しがとても良くなり、ウルシの木が健全に育つ環境がすっかり整っており、お陰さまで見違えるほどの明るい景色に変わっていました。そして沢山の太い木が一方にきれいに揃って倒されているのを見てまたビックリです。見事です、素晴らしいです。その伐採された木の処理作業を行いました。チェーンソー3台のエンジン音が谷に響き渡りました。太い枝を切り、それを引っ張り出し、玉切りにし、小枝を払い、それぞれを集積所に運び整理するという流れです。太い材になるとより危険性が高くなるため、常に身の安全を頭に置きながら作業をしました。チームワークがとても良好だったので、滞りなくスムーズに進み、随分とスッキリした状態になったかな？と思いました。とても大変でしたが何事もなく、無事に作業を終えることが出来て良かったです。みなさま、ありがとうございました。

※『うるし谷整備作業』について…〇参加人数 2月3日:4名/2月11日:13名/2月12日:11名  
延べ人数 28名 〇整備された本数とその切り口の直径①10cm/②19cm/③20cm/④25cm/⑤26cm/  
⑥⑦30cm/⑧35cm/⑨40cm/⑩⑪60cm/⑫⑬70cm 以上13本 ほとんどがエノキとクスノキです。

これほどの太い木を一方に整備するにはとても高度な技術と知識、そして豊富な経験を身に付けていなければ出来ないことだと強く感じました。凄い業です。3日間、大勢の方にお世話になりました。大変お疲れさまでした。そして、どうもありがとうございました。(林 哉也)



## 新しい舞台の準備着々と

舞台用材木の防腐剤塗り…本日の作業は体験棟前にある舞台を作り変えるための材木の防腐剤塗りです。先日から防腐剤塗り作業は進んでいて今日はその続きです。防腐剤は透明のものと茶色のものがあり、使用する場所で塗り分けています。表に見える材木は透明の防腐剤、中に隠れる材木は茶色の防腐剤を塗ります。寒風吹き荒れるなか、10名の参加で作業を行ないました。2時頃まで作業を行ない、厚い板、薄い板、そして角材を合計59点、それぞれ2回塗りを終わりました。あと24本の角材がありますが、それは次週の作業ということになりました。どの材木が舞台のどこに使われるのかよくわからなかったのですが、Sさんが今度作り替えるヒノキ舞台のミニチュア模型を作成してくださいました。それを見ればどの材木

をどこに使うか一目瞭然です。組み立て作業が楽しみです。今後の予定は、3月初めに今ある舞台の解体撤去をして、3月中の組み立て完了を目指します。本日は寒かったですが、昼食に作ってくださった芋煮で暖まり楽しく作業ができました。皆さんお疲れさまでした。(堀田 正二)



## 炭窯の炭材詰めと薪作り

炭焼作業…参加人数（男性8名、女性2名（午後から2名加わる）／本日の作業 ①炭窯に炭材を詰める ②薪の在庫が少なくなってきたので薪を作る。

まず、炭材詰めから全員で行いました。小屋から炭材を窯の前まで運び出し、長短を分類して炭材が効率よく焼けるように窯の中に詰めました。その間に女性の方は、窯の口を密閉する時に使う土を用意しました。厚板の上で粒の土を木槌で叩いて細かくする作業な

ので、「コン、コン、コン」とリズムカルな音が心地よく響いていました。炭材詰めが終わると窯口の封印にかかるのですが、皆に熟練してもらうために毎回この作業をする人が変わります。そしてその人は、その日最後まで、もう一人のサポーターといっしょに仕上げます。その内容は、窯の口を四角い石で、隙間をドロで塞ぎながら積み上げるというものだが、難しい。

一方、薪作りを本格的に始めたのは午後からで、窯の口の封印作業員2名を除いて、総掛かりで行いました。丸太をチェーンソーでカットして、それを薪割り機で割って、その割った薪を一輪車で小屋に運び入れました。時々女性の方が封印作業の所に来て「職人みたいやね」と声をかけていました。かけられた当人は「いやいや」と言いながらも満更でもなさそうでした。終了時間も近づいてきたので薪割り作業は片付けに入り、封印作業もほぼ仕上がったようです。というわけで、本日の作業は終了しました。（林 龍三）

## オオムラサキの森づくり

オオムラサキプロジェクト…3回目のオオムラサキプロジェクトには子どもたちを中心に16名の参加者が集まり、わかやまNPOセンターと和歌山環境ネットワークのスタッフ、近畿大学生物理工学部の学生をはじめとしたボランティアのみなさんと一緒に活動しました。

今回は、まず初めに先月、炭材サイズに整理したコナラ枯れ木を集積場所から歩道までみんなで並び、バケツリレー方式で道まで運びあげました。このリレーを行うルートについては、前々日の金曜日に3人の倶楽部員で歩道へつなぐ階段の設置やじゃまになる木を整理するなどの作業を行って整備していたので、スムーズにリレーできました。30本以上あった炭材もみんなで並んでリレーすると30分ほどで運び上げてしまいました。子どもたちのパワーもばかにはできません。その後、あらかじめ切り倒していたナナミノキの枝をノコギリを使って片付けて午前中の作業は終了。午後は、枯れたコナラにロープを掛けてみんなで引っ張って伐り倒し、これもノコギリを使ってみんなで片付けました。10cmを超える太さの枝の切断に挑戦する小学生もいて、切り倒した巨木も1時間ほどできれいに片付けてしまいました。

来月はいよいよ植樹です。ここにどんな森ができあがるか楽しみです。（岡田 和久）



寒い冬もようやく過ぎて、待ち遠しかった春がすぐそこまでやってきました。

これからは、ヒサカキやヤマウグイスカグラを皮切りに、いろいろな花が里山を彩ってくれます。

そして、下旬には主役のヤマザクラも咲きそろい、やがて森は新緑の季節へ。

まさに、力強い命の躍動です。

こんなに眩しくダイナミックな森の変化が見られるのは今の季節だけ。しっかり楽しみましょう。

（岡田 和久）